

日本の労働社会の変革 —ジェンダーの視点—

—橋大学名誉教授
木本喜美子

本日のストーリー

- 日本的雇用慣行と女性：排除or周辺化
- 男性は働き過ぎへと傾斜

⇒結婚像（男性稼ぎ主＋主婦）

・・・女性の貧困の不可視化

⇒⇒しかし1990年代半ば以降、若者の貧困の
顕在化と女性の貧困への目線の変化

・・・「フリーター」（東北地方）のリアルな体験から考える

(1) 日本型雇用慣行とジェンダー

- 日本型雇用システム

- ▲メンバーシップ型の正社員

- ▲ジョブ型の非正規労働者

→正社員:新規学卒者が「就社」(vs.「就職」)

企業内教育訓練

年功賃金

頻繁な異動・移動

長時間労働、サービス残業

=企業社会への強いコミットメント=大企業の男性正社員

→陰画としての非正規=女性、そして若者(女性、男性)

日本的雇用慣行への入り口としての 新卒一括採用

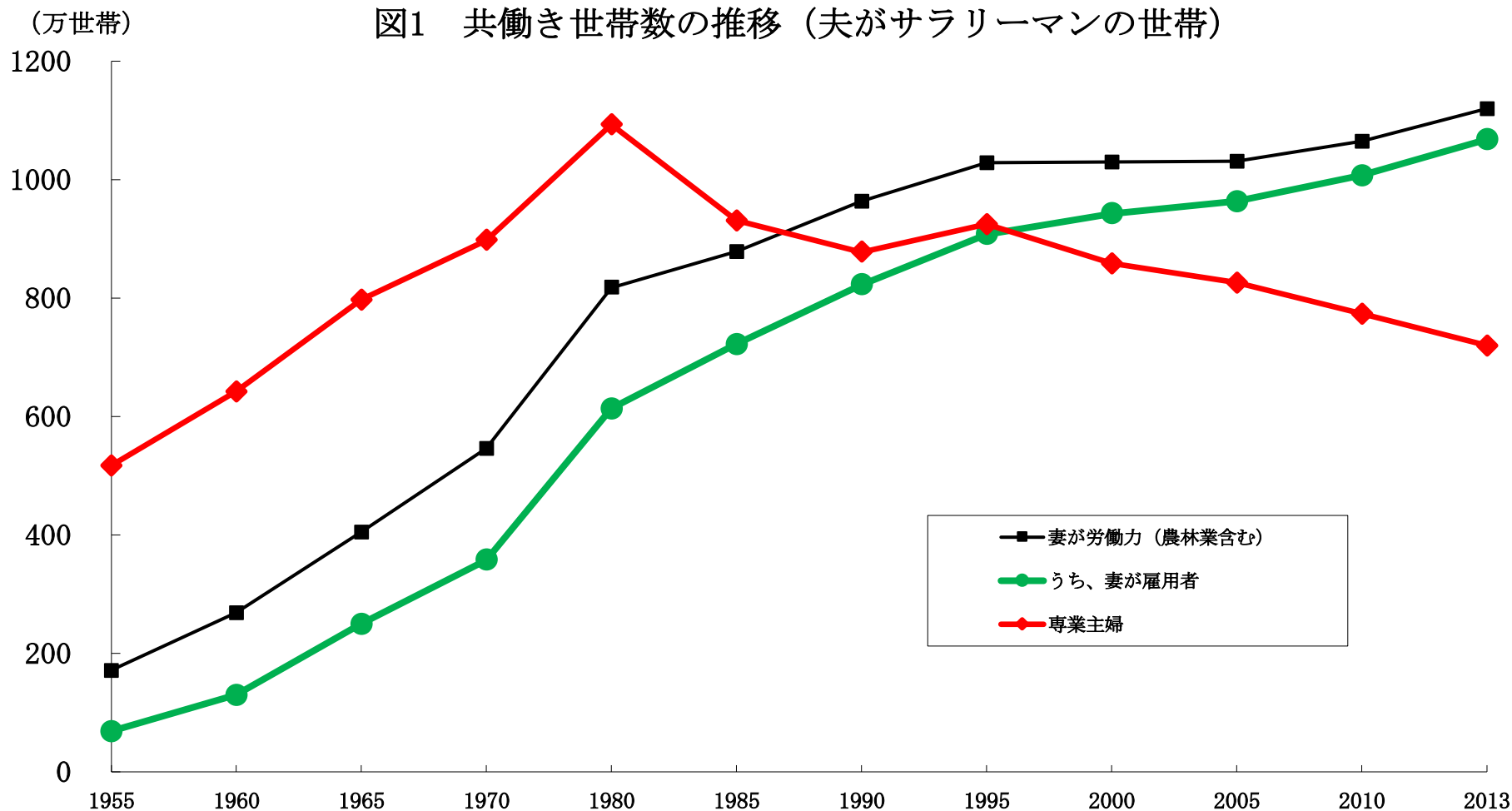
- 「ずぶの素人」を迎え入れ、企業内で人材育成する
←曖昧な選抜基準：(学校歴や専門にも配慮はするが)、「自社」にふさわしい資質の持ち主
(＝訓練を受容する素直さ、協調性)
- 「就活」がシステムティックに展開
 - ・・・**女性**はあらかじめ排除されていた時代があった
(＝長期雇用に堪えない)

日本型雇用慣行のもとでの結婚・家族像

- 男性正社員は家族にとっての稼ぎ主・・・働き過ぎへの限りない傾斜傾向
＝企業社会に呑み込まれた「会社人間」へ
- 女性は若年退職し、「職場の花」から「**三食昼寝付き**」へと「**永久就職**」＝専業主婦となる
・・・やがてパートに

→→→会社人間＋専業主婦(or パート主婦)

図1 共働き世帯数の推移 (夫がサラリーマンの世帯)



(出所) 総務省「労働力調査」より作成。

主婦化：政策的バックアップ

- 1980年代には、一連の「主婦優遇」制度
・・・「内助の功」の評価

△民法の配偶者法定相続分の引き上げ(1980年)

△パート所得の特別減税(1984年)

△サラリーマン世帯の主婦年金の創出(1985年)

△所得税の配偶者特別控除(1986年)

→→→主婦は、働かない方がお得です？！

(2) 日本型雇用慣行と女性の貧困 ー不可視化から可視化へー

① 男性稼ぎ主型の家族を標準化＝**皆婚社会**
＝＜会社人間化する夫＋専業主婦orパート主婦＞
の組み合わせ・・・それ以外は**逸脱家族**

② 女性労働の周辺化

EX. 女性管理職がきわめてわずか(2016年)＝12.9%：

係長12.9%、課長12.1%、部長6.5%

cf. 2016年：アメリカ43.8%、フランス32.9%、

スウェーデン39.3%、イギリス36.0%

③ パートの低賃金の是認・・・コアとなる所得がある！

元祖・非正規としての主婦パートの低賃金

- ・・・非正規のマジョリティが主婦パートであった時代、
低賃金水準に対する批判はなし
- ・・・パートも時間調整して、たくさん稼がないようにしていた
- ・コアとなる所得がない女性の場合??
→ex.シングル・マザー問題
水島宏明『母さんは死んだー幸せ幻想の時代に』
現代教養文庫
- ・・・1987年1月（岡田恭子さんの餓死）
ギャンブル好きの夫と離婚後、3人を育ててきた

日本的雇用慣行の守備領域の縮小と 非正規化の進行

＜グローバル化の波のなか、日本的雇用慣行見直しの動き＞

○バブル経済崩壊後の「就職氷河期」世代の出現
※1994年の流行語大賞

・・・ロスジェネレーションの誕生

○1990年代半ば以降、労働市場の規制緩和
・・・非正規の拡大⇒非正規へのまなざしの変化（「フリーター問題」「格差社会」）

図2 年齢別完全失業率(男性)

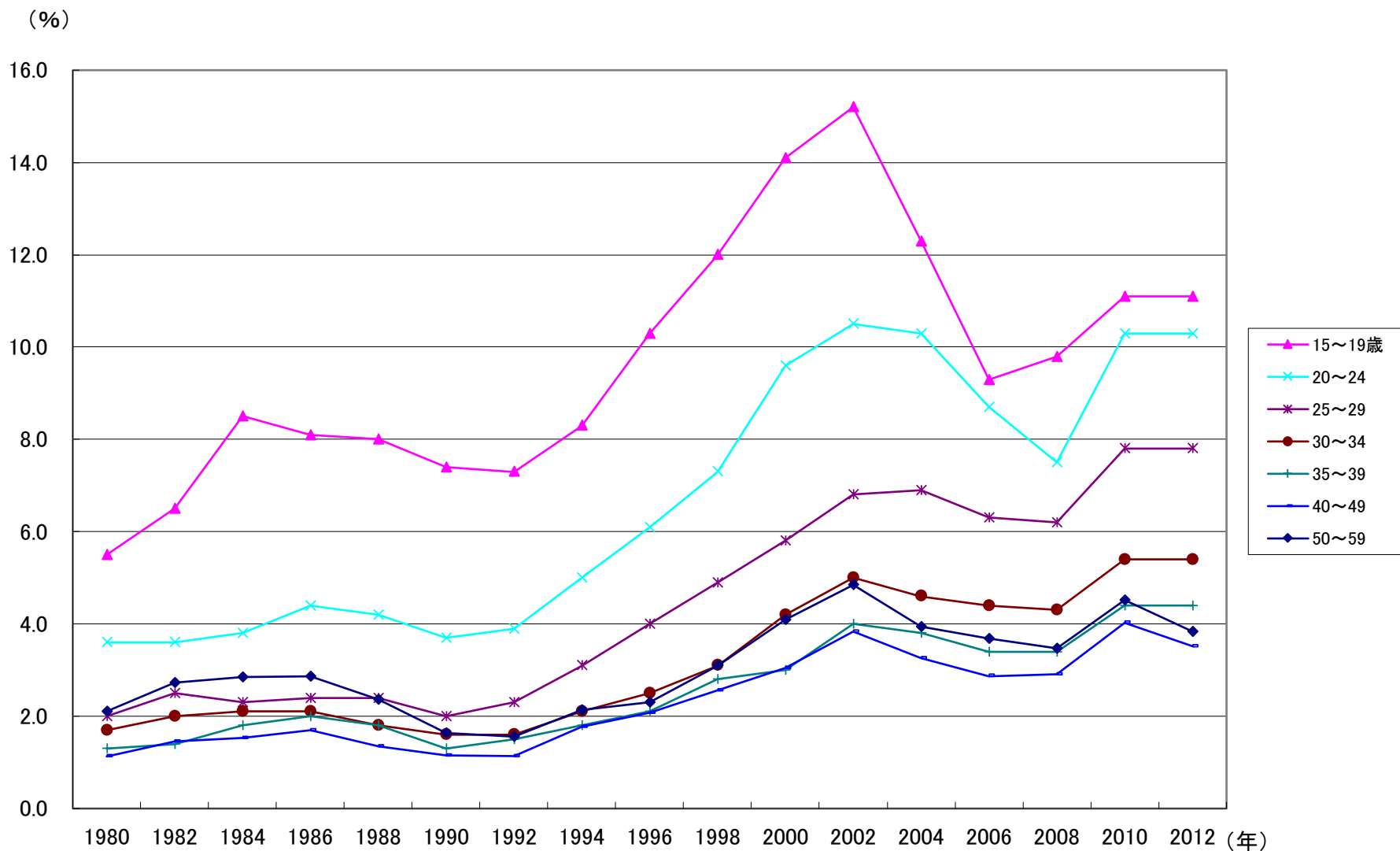


図3 年齢別完全失業率(女性)

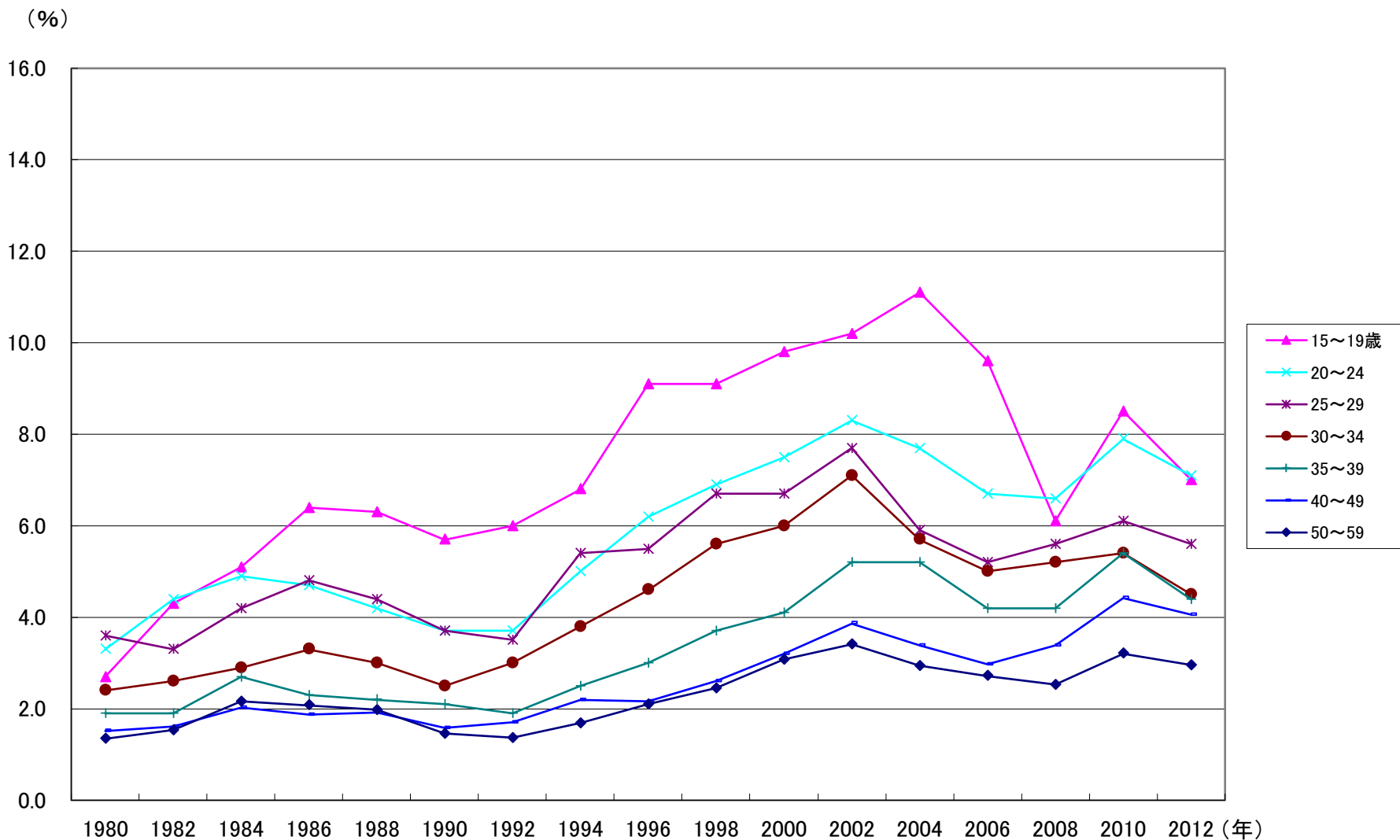
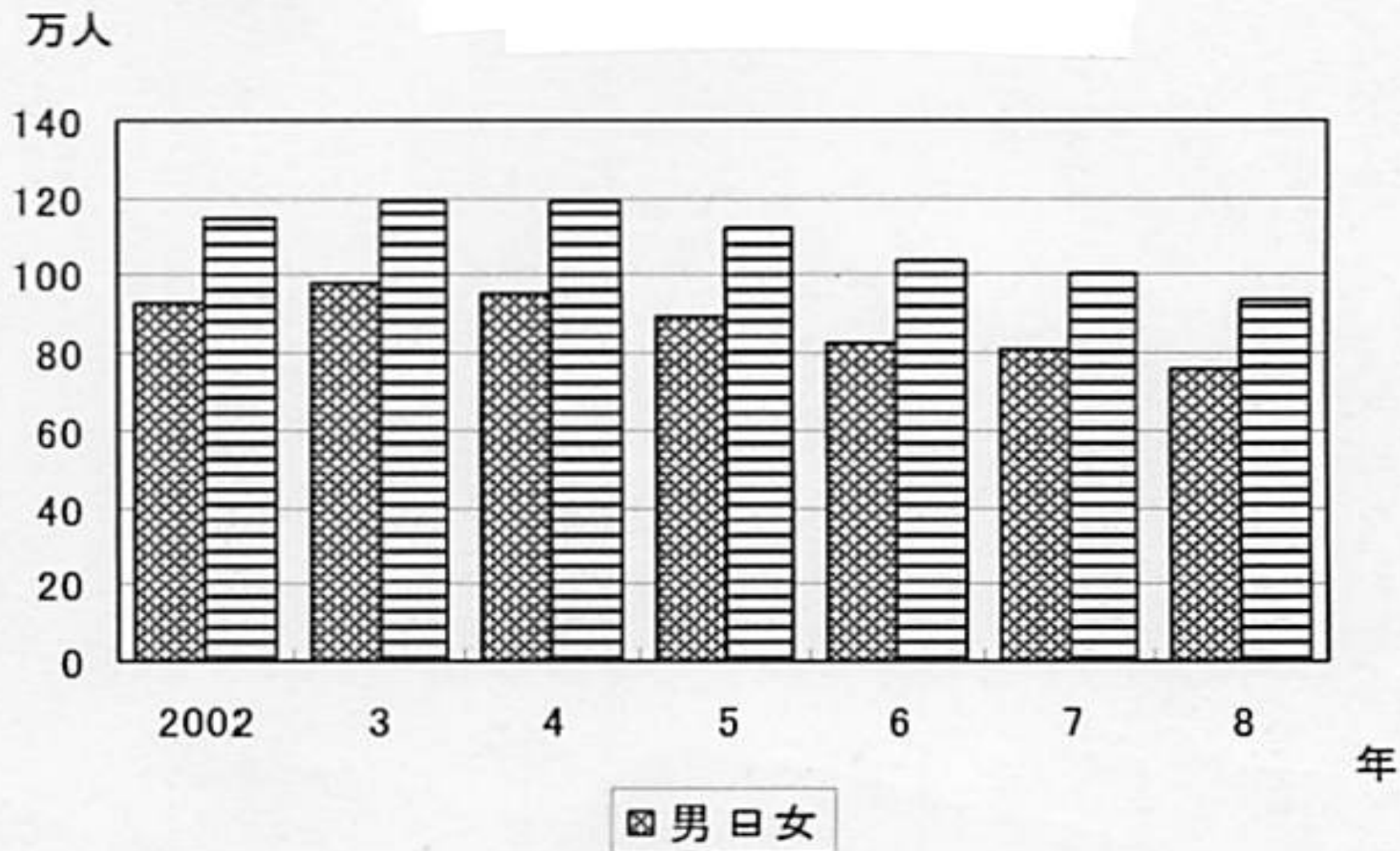


図4 男女別 フリーター(15～34歳)の推移



非正規をとらえるバイアス

- 「フリーター問題」、「格差社会」との問題意識の成熟

⇒ 男性フリーター: 「結婚もできない！」
「女が寄りつかない！」

⇒ 女性フリーター: 「家事手伝い」という呼称
・・・結婚すれば解消する？

※非正規化の進行と晩婚化・未婚化

ISBN4-13-051311-7

C3037 ¥3800E

定価(本体価格3800円+税)



9784130513111



1923037038008

若者と仕事

「学校経由の就職」を超えて

本田由紀 著

東京大学出版会

若者と仕事

「学校経由の就職」を超えて | 本田由紀 著



東京大学出版会



by Karin Amamiya

生き
させろ！
雨宮処凛

難民化
する
若者たち

生きさせろ！
雨宮処凛



太田出版



9784778310479



1920095013008

ISBN978-4-7783-1047-9

C0095 ¥1300

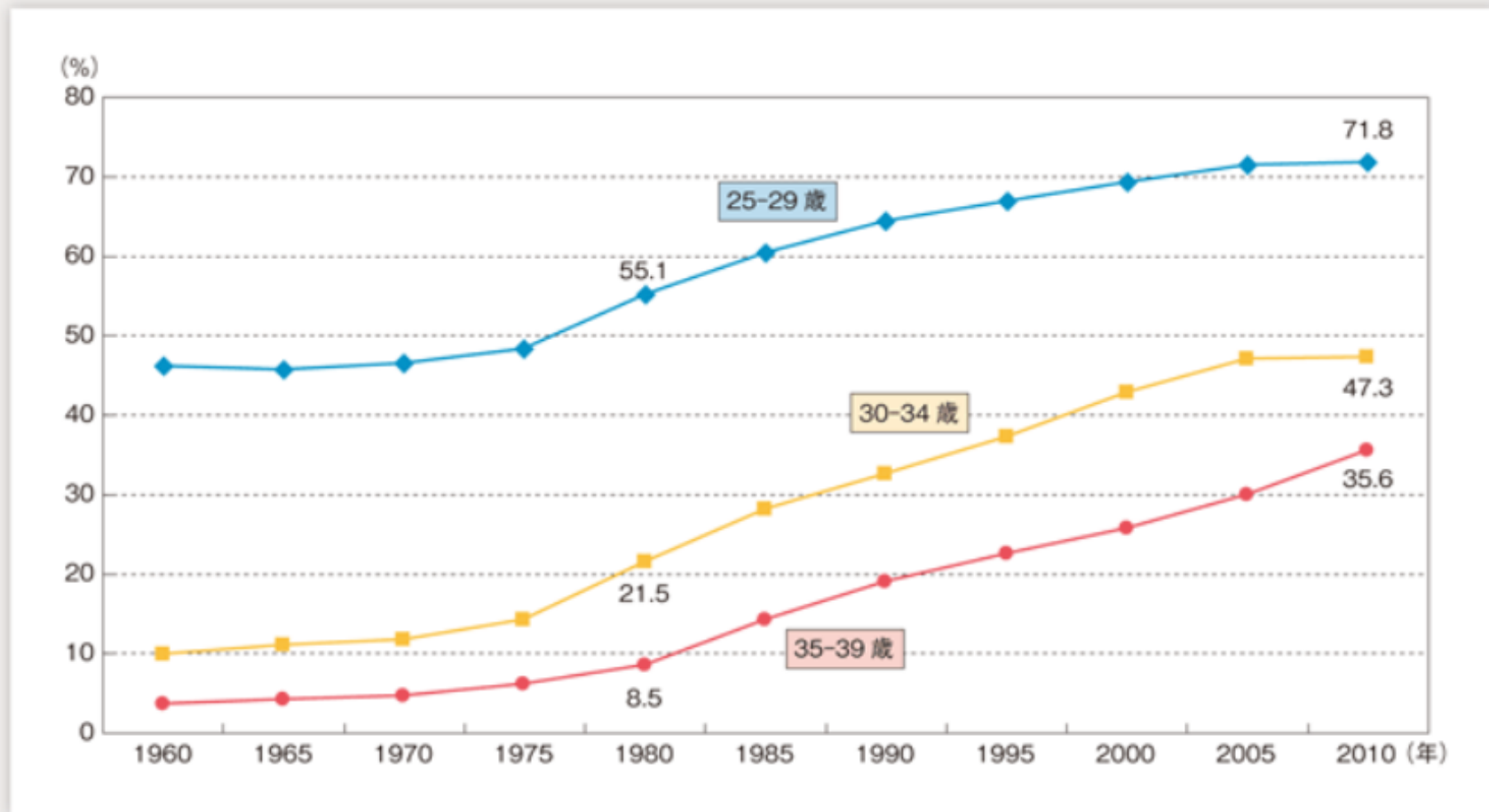
定価(本体価格1300円+税)

太田出版





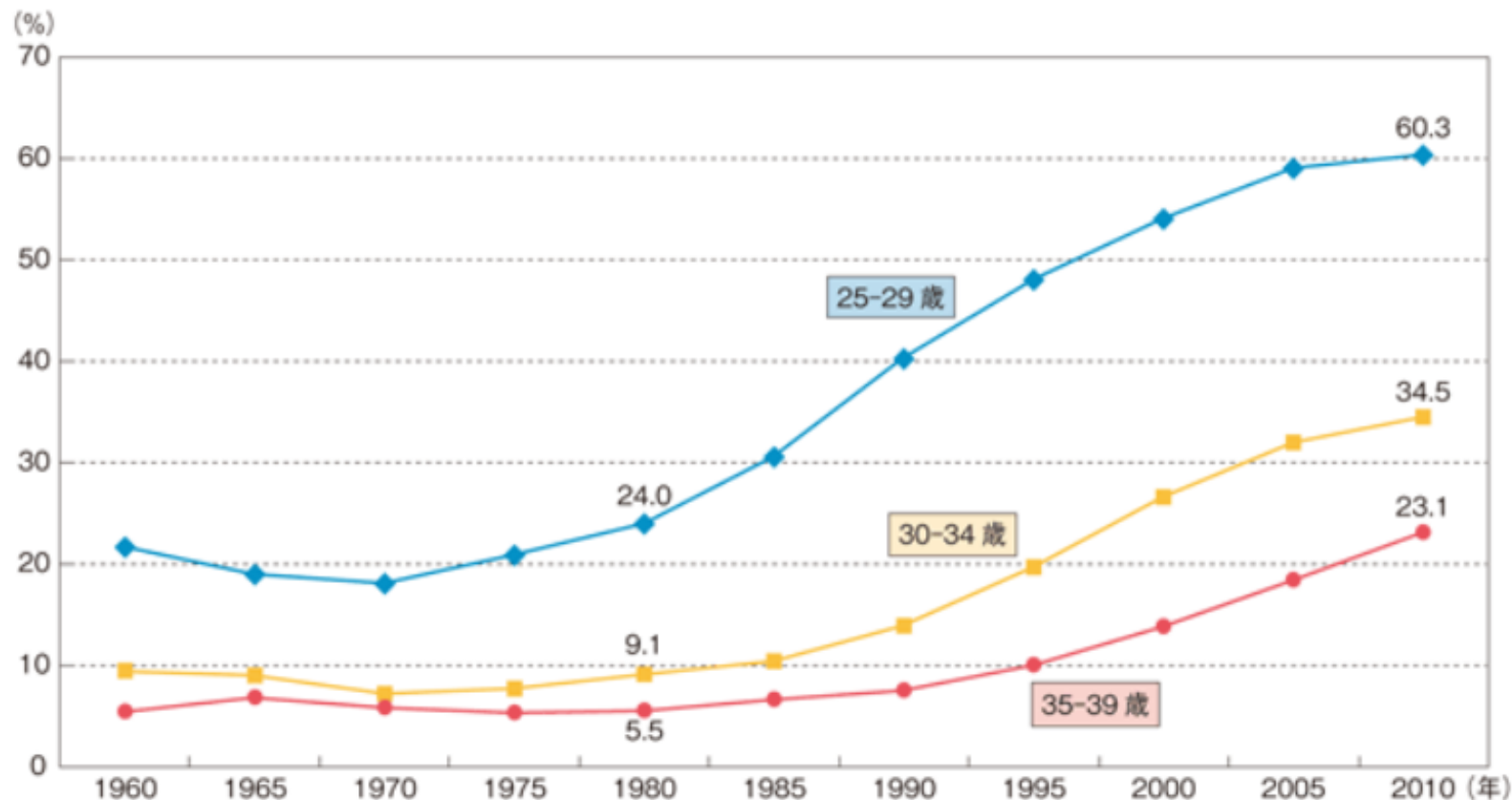
図5 年齢別未婚率の推移(男性)



資料：総務省「国勢調査」

注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

図6 年齢別未婚率の推移(女性)



資料：総務省「国勢調査」

注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

図7 離婚件数の推移

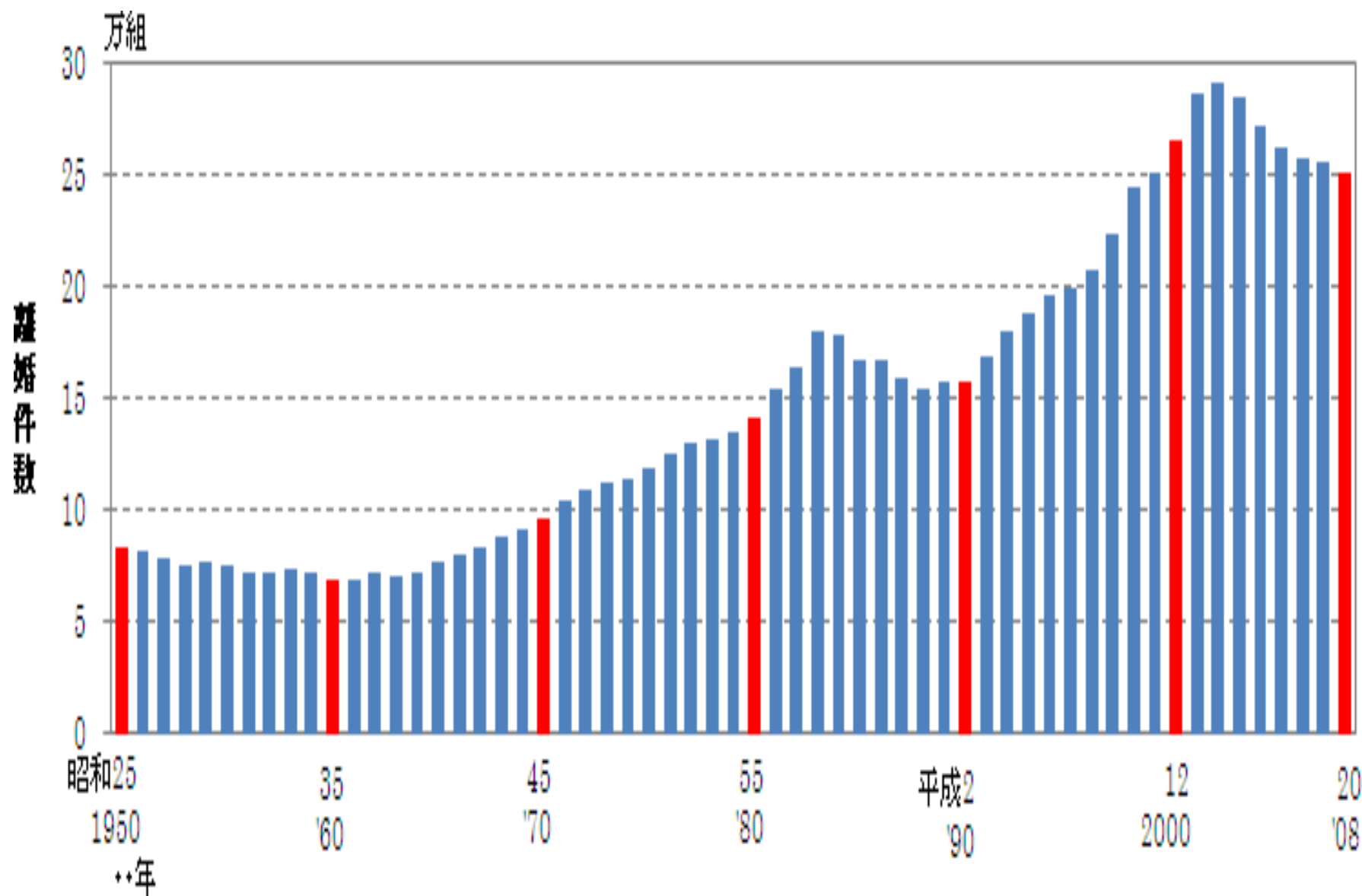
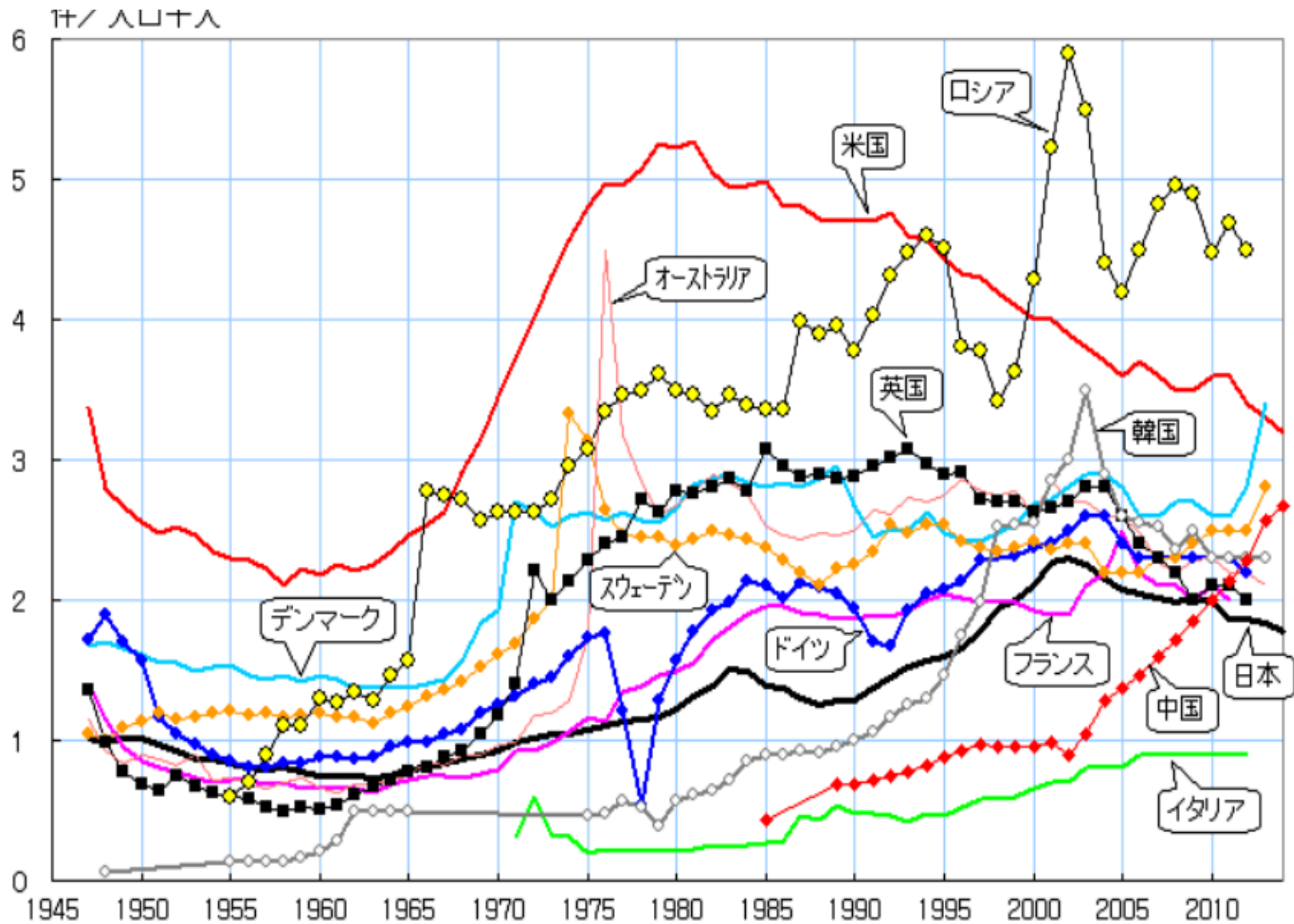


図8 主要国に離婚率の推移(件/人口千人)



非正規問題と格差社会

- 女性と若者を犠牲にした非正規化
 - ロスジェネ世代は浮かび上がりにくい
 - しかし「格差社会」認識、非正規問題の深刻さへの視点、女性と若者の貧困問題への認識・・・未婚化・非婚化＋離婚の増大
- ⇒ 家族内地位との関係とは別に、ひとりひとりの自立の可能性を探る問題意識へ

(3) 地方の非正規若者の実像

ー東北調査からー

- ・ 2005年8月～11月（「地域における若者育成及び家族形成＜家族・仕事・結婚＞支援に関する調査」
（こども未来財団、主任研究者=木本喜美子）

岩手27人（うち女性15人）、山形22人（うち女性15人）
→計49人（うち女性30人）

- ・ 2008年9月～10月（「少子化時代における若者の職業キャリアと家族形成に関する地域間比較研究」
（科学研究費、研究代表者=石井まこと）

岩手14人（うち女性7人）、山形16人（うち女性11人）
→計30人（うち女性18人）

失われた世代が抱える問題

(岩手・山形調査より: 2005年)

◎長引く不況下での地域労働市場の窮迫化
(中国への製造業進出)

◎お金をめぐる親子の複雑な葛藤、悩み

◎職歴

本人の事故・病気や家族の病気/ 公務員試験・教員試験と両立させるために非正規雇用
/ 初職からずっと非正規/ 夢の実現のために

・・・労働市場逼迫の爪あと

仕事と結婚の展望(男性)

【男性29歳・求職中】「(結婚)しなきゃとは思いますが、仕事にも就いていないし、順序としては最初に仕事があると思うので、まずはそれを見つけてからだと思っているんですけど。ま、相手がいない。(まずは仕事を探すのを相当重点的に?)お嫁さんがいなくても暮らしていけますけど、仕事がないとあれですからね」

【男性27歳・公務非常勤】「相手が今待っていてくれる状態なので。(教員採用試験に)受かったらすぐ(結婚したいです)」

【男性21歳・ジーンズ店でバイト】「付き合っている彼女がいます。今は現実とかが見えるのであまり結婚の話はしませんけれど。フリーターでは結婚できないかなって。

仕事と結婚の展望(女性)

【女性34歳・休職中】「(結婚の)予定なし。相手は、今すぐでなくてもいいけどほしいです。でも、今は仕事や自分の生活をきっちりと立てていかないといけないので。もし結婚しても仕事は続けたいから、何となく結婚すると、『結婚生活』にするずると引きずられていっちゃいそいで嫌なんです」

【女性31歳・団体・臨職】「(つきあっている彼と)来年あたり結婚(を考えている)。でも子供を産むとなると臨職で産休取れないので辞めなければならず。その後のことを考えるとどうなるんだろと。仕事は続けたい」

【女性27歳・車のディーラー事務・パート】「交際期間は長いが予定なし。途中で仕事ができなくなったら困るので。やっぱり生活を安定させたい。福利厚生が充実したところを選びたい。お互いに安定してない」と

フリーター自罰的語り

【男性28歳・公務非常勤】「中卒でも、45年も同じところで働いた、というのがすばらしい、と。だから転職には悪いイメージがあります。地方は高校出ても半分くらいは就職できなかったりします。そういう状態だけど、でも就職できないと(周囲の)視線が厳しい」

【男性29歳・休職中】「公務員試験は面接まで行くが落とされる。自分が甘いからじゃないですか。若いなんて思っていないですよ。ギリギリだと思って焦っています。必死さに欠けているんですよ」

【女性32歳・公務臨時職員】「甘かったんですよ、本当に」。「(親に)我慢が足りないと責められたんです」。

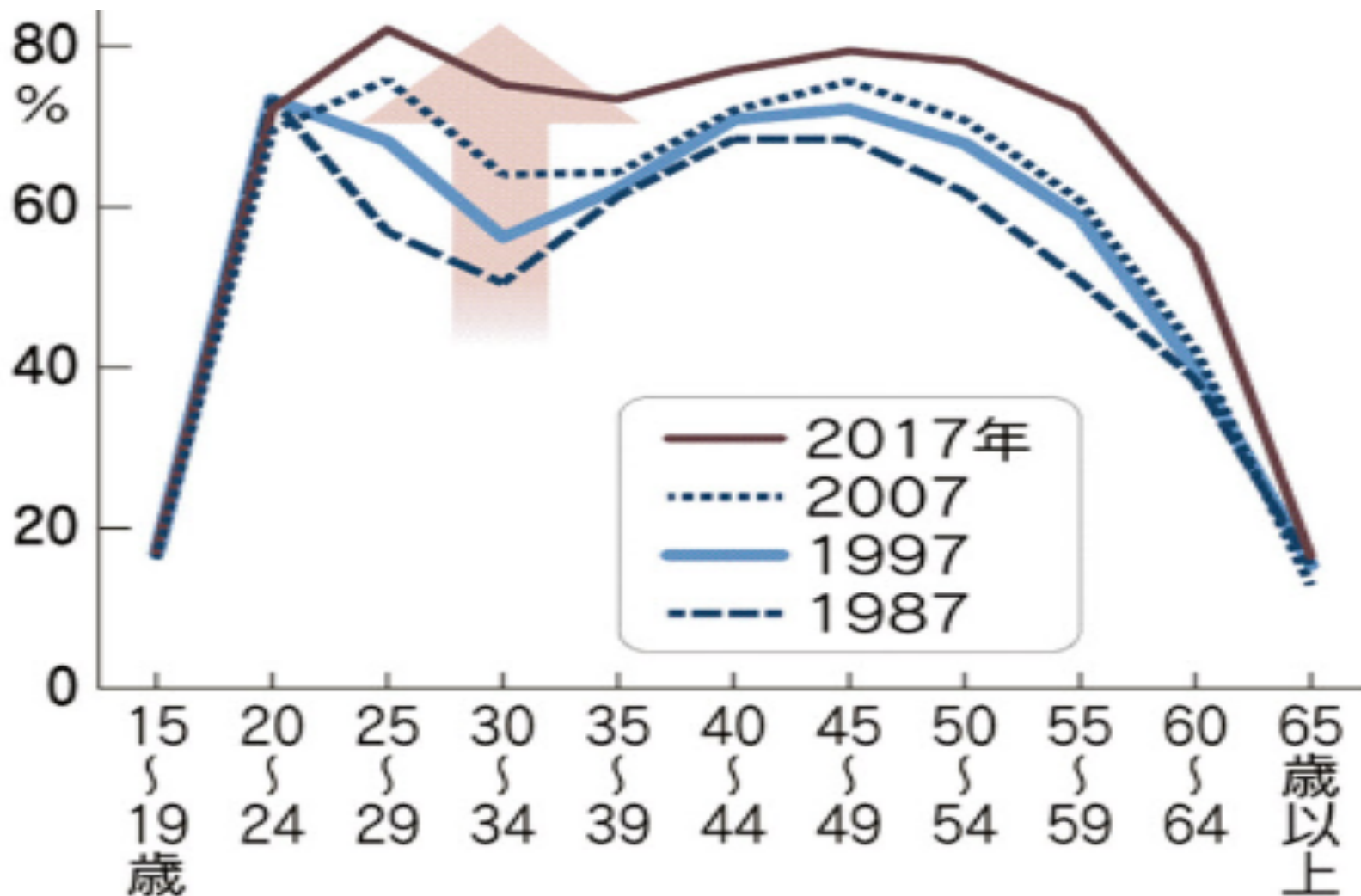
非正規のリアル

- 非正規化と結婚離れ傾向（特に男性）
 - 女性にとって、結婚＝「永久就職」「ゴールイン」ではない・・・共働きへの移行
 - 未婚時はもとより、結婚後も親世代への依存から抜け出せない・・・世代間葛藤
 - 若者世代を支える親世代の経済状況は？
・・・親子共倒れの危険性？
- ※ただし10年以上が経過し、非正規がさらに増大

東北の事例と現代日本社会

- 日本的雇用関係との関係：地方圏には、この慣行の影響力は強くはない＝男性稼ぎ主基盤が弱い⇒妻も働く共働きが主流
- そうした中、女性は「結婚すればすむ」と、仕事に対しておざなりではいけない
 - 現代日本はそうした共働き志向も強くなった
 - しかし、女性の受け入れ、活躍の余地は??
 - 家族の包摂機能の弱化＝貧困が可視化

図9 女性労働力率の変化 —「M字」から「台形」へ—



(出所) 総務省労働力調査、女性の労働力人口比率

日本的雇用慣行の揺らぎ

- 今なお、必死で就活・・・以前よりも縮小した正社員の座席を目指して
- 他方では日本的雇用慣行の守備範囲の縮小・・・価値観の修正が必要な時代？
- 男性の経済力に依存した結婚か、共働きか？・・・女性の労働権の確立
- 女性・若者の貧困、子どもの貧困を絶つには？

石井まこと他編『地方に生きる若者たち』 旬報社、2017年

